

SLJ-32

STEREO

ST 33



# 邦楽三味線ムード

豊寿名演集

三味線

豊寿・豊藤

川上義彦編曲  
ポリドール・オーケストラ



英山 庄

## 邦楽三味線ムード(豊寿名演集)

編曲：川上義彦——三味線：豊寿、豊藤

ポリドール・オーケストラ

## —A面—

1. 二上り新内…………… 2' 39"
2. 春 雨…………… 2' 53"
3. 娘道成寺…………… 2' 20"
4. 梅は咲いたか…………… 1' 41"
5. 木遣りくずし…………… 2' 24"

## —B面—

1. 新内流し…………… 2' 46"
2. 潮来出島…………… 1' 18"
3. 越後獅子…………… 2' 31"
4. 元禄花見踊り…………… 3' 24"
5. びんのほつれ…………… 1' 27"

オーケストラと三味線の合奏は、いわゆる和洋折衷という形で、わが国独特の演奏形式といってよいでしょう。

ひとくちに和洋折衷とはいっても、洋楽のほうが、ド・レ・ミ・ファ……の音階で書かれているのに、三味線のほうは、まるで違った調弦をしているわけですから、この両者をうまく組み合わせるには、かなり苦心があるわけです。したがって、ちょっと三味線のおさらいをしたという程度では、オーケストラとの合奏など、思いもよりません。

今回は、前述のように大変に珍しい形の演奏。いずれも、なつかしい良き時代の情緒あふれた旋律で綴る(三味線のムード)を、心ゆくまでお楽しみいただきたいと思ひます。

編曲は、すでに定評ある川上義彦で、豊寿(三味線)とポリドール・オーケストラの意気合った快心の作品と申せましょう。

現在オーケストラとの合奏をするとき、安心して聞ける三味線の演奏者として、豊寿さんの存在は誠に得難きものがあります。芸ごとの好きな両親のもとで、6才の頃から長唄の素養を身につけ、長じて、山田抄太郎に師事しました。芸術大学教授として鳴らした抄太郎師匠は、洋楽の造詣の深い人ですから、今日の豊寿さんの活躍の基礎は、その時代に作られたといってもよいでしょう。

抄太郎門下で師範にすゝんでから、六四郎と名のついていたころの稀音家浄観の門にうつり、ここで修業の末、名取りとなりました。この人の本格的な長唄の三味線を、このアルバムで聞くことが出来るのは、まったく、楽しい収穫です。

長唄のほうは、こうして名取りになったわけですが、それだけではあきたらなかつた豊寿さんは、春日派の小唄を学んで、即興的な三味線の合わせ方を研究し、さらに、三味線豊吉の門に入って、俗謡の三味線を学びました。長唄とはまた違った変化の多い俗曲の三味線は、なかなか難かしかつたようですが、生来の芸術心で、豊吉一門の看板になるところまで修業をつみ、遂に師匠の名をとって、豊寿を名のつてからの活躍ぶりは、みなさまもご存知のとおりです。

現在では、あらゆるスタジオ・オーケストラで、三味線と合奏が必要になるときには、まず、お声がかかるという繁昌ぶり。師匠豊吉が、かつてマスコミ界に築き上げた地位を、この人ならつてことが出来ると、将来を囑望されております。

洋楽との合奏になると、従来の本調子、二上り、三下りという三つの基本的な調弦だけでは、あわせきれないこともあり、六下り(三メリともいう)とが、一下りあるいは、もっと自由な調弦も試みなくてはならないわけで、俗曲や俗謡をお座敷で演ずるとは、まったく違った難かしさがあります。とくに、長唄や浄瑠璃ものを、オーケストラ曲に編曲している場合には、邦楽その

ものもつ格調(浄瑠璃では本格的な本調子が多い)を生かさなくしてはならないので、ますます難かしくなるわけです。

洒落な俗曲と本格的な堂々とした長唄や浄瑠璃の演奏を、ともにこなすことのできる第一人者としての豊寿さんの活躍を、今後も期待したいと思ひます。

## —A面—

## 1. 二上り新内

「新内」の名はついています、新内と直接の関係があるわけではなく、しんみりとした情緒が、いかにも新内風なので、二上り調子の新内というような意味の名がつけられたのです。文政年間といえますから、130年ぐらゐ前が流行の絶頂で、その後、一時すたれましたが、明治いらい復活しました。

「悪どめせずとそこ離せ あすの月日がないように、とめるそなたの心より 帰るこの身が エーマア どんなに辛かろう」というのが本唄といわれ、数多くの替唄が作られています。

## 2. 春 雨

江戸時代の花柳界では、座興で三味線ととり、適当な文句に勝手な節づけをして唄うのが粋な遊びということになり、いろいろな唄が作られました。これが端唄といわれるもので、きまつた節などなく、だれがどんな唄い方をしてもかまわないというものでした。それに対して、一定の節回しを与え、洗練された形になおしたのが歌沢というもので、端唄と歌沢では同じ文句のものを、別の節回しでうたうことが多いのは、そのためです。

「春雨にしっぽり濡る うぐいすの  
羽風に匂う 梅や香や 花にたわむれ  
しおらしや……」。

## 3. 娘道成寺

娘に言寄られた若い僧侶が、熊野詣りの帰り立ち寄りといひ残して逃げ出すと、それを知った娘が執念のあまり大蛇と化してその後を追い、紀州道成寺の釣鐘の下に隠れた僧を見つけ出して、釣鐘ごと焼殺してしまうというのが、古くから伝わる道成寺の伝説です。この悲恋物語は、その後、いろいろの形に組みかえられて、地唄、謡曲、河東節、一中節、長唄などで歌われていますが、その中でいちばん有名なのは、長唄の「京鹿子娘道成寺」でしょう。「花のほかには松ばかり……」の名調子は、邦楽に少しでも興味をおもちの方なら、たいていご存知のことと思ひます。いまから、二百年以上も前に、作られたもので、宝暦三年、江戸中村座で、中村富十郎が踊った歴史が残っています。

## 4. 梅は咲いたか

本調子のいかにも、小唄らしい小唄です。  
「梅は咲いたか 桜はまだかいな、柳やなよな風しだい、山

吹や浮気で いろばかり しょんがいな」

判りやすい調子、判りやすい唄で、すべてがととのっている小唄と申せましょう。

## 5. 木遣りくずし

「木遣り節」のほうは、威勢のいいものですが、これは、花柳界用に三味線の手をつけ、本行の節をくずしてこしらえたものです。文久年間、いまからおよそ百年前に江戸で流行し、その後、京阪地方におよんで今日まで続いています。

江戸末期の花柳界の情緒が濃厚にただよう曲です。

## —B面—

## 1. 新内流し

豊後節という古い浄瑠璃の後をうけて起つた敦賀節が、いまの新内節の母体とされています。豊後節は、心中道行を扱った芝居によく使われていたもので、一時、幕府の忌避にふれて、上演を禁止されたことがあり、禁止令がとかれてからは、常磐津、富本、清元の三派が、もっぱら芝居の舞台に、新内節の母体の敦賀節は、もっぱら遊里吉原の座敷を根城にして流行したものです。流行の場所が遊里なので、座敷から座敷へ、流して歩くのが主な稼ぎ。そのため、ちょっと聞けばそれとわかるような、特殊な情緒を持った前弾きや流しの手が、いろいろと工夫され、いわゆる「新内情緒」をかもし出しています。

小舟のついで、浜町河岸あたりでけい古をした流しの芸は、江戸情緒を満喫させてくれるものです。

## 2. 潮来出島

もとは、水郷潮来の船頭さんたちの唄といわれていますが、後に江戸から東北方面へ通じる宿場潮来の花柳界が繁昌して、代表的なお座敷の俗謡になりました。

「よしこの節」「どどいつ」などは、この「潮来節」から変化したものといわれています。

「潮来出島の真この中で、あやめ咲くとはしおらしや」の句が、元唄といわれます。

## 3. 越後獅子

邦楽の中には、いろいろ「獅子」ものがあります。いちばんの有名なものは、清涼山の石橋で、寂照法師が獅子舞の奇瑞を見たと、謡曲や長唄の「石橋」ですが、そのほかにも、仇討と組合わせた「望月」や「伊勢神楽」「祭礼獅子」の系統のもの、そして、郷土色ゆたかな角兵衛獅子の親子をテーマにしたこの「越後獅子」があります。

「越後獅子」は、いまから百五十年ほど前、文化八年三月に江戸中村座の舞台で、三代目中村歌右衛門の踊りを見せるための七変化の地の長唄として、九代目村屋六左衛門が作曲したものの一つ。この時の七変化は、傾城、座頭、業平、越後獅子、橋弁慶、米しようき、さがみひき、中村座と対抗していた市村座で、踊りの名手阪東三津五郎の「汐汐」が、同じ七変化で人気をとっていたので、ばん回策として舞台にのせたのです。

## 4. 元禄花見踊り

明治十一年六月、東京の新富座開場祝いの最後の出し物に使われた、華やかな踊りの地の長唄です。作曲は、三代目村屋正治郎。

上野の山の花見に集まった武士、町人、遊女などが、元禄風の派手な装いで、揃って踊るといふ趣向で、お花見の風俗を音楽化したものの代表作とされています。

遠い江戸時代の風俗が、ほうふつとしてくるような作品です。

## 5. びんのほつれ

江戸時代の花柳界で流行をきわめた、お座敷ほうたの代表曲とでもいえるものでしょう。明治時代に入っても、通人の間のたのしみから、大衆的な流行曲となり、「新びんのほつれ」といった替唄の数々が歌われています。本唄は、「びんほつ」という略称でおなじみの、次のような文句です。

「びんのほつれは 枕のとがよ  
それがお前に疑がわれ  
勤めじゃエー 苦界じゃ  
許るしゃんせ」

(解説 中川満佐)



¥ 1,200

ポリドールレコード

SLJ-32

Manufactured by Nippon Gramophone Co., Ltd. Japan.

日本グラモフォン株式会社

STEREO

MANUFACTURED BY NIPPON GRAMMOPHON CO., LTD. JAPAN.  
BROADCASTING OF THESE RECORDS ARE FORBIDDEN.

ALL RIGHTS OF THE RECORD MANUFACTURER AND OF THE OWNER OF THE WORK RECORDED RESERVED.  
COPYING, PUBLIC PERFORMANCE, BROADCASTING OF THESE RECORDS ARE FORBIDDEN.



SLJ 32

A

邦楽三味線ムード  
(豊寿名演集)

- 1. 二上り新内
- 2. 春娘道成寺
- 3. 娘道成寺
- 4. 梅は咲いたかし
- 5. 木遣くずかし

(編曲：川上義彦)  
三味線：豊寿、豊藤  
ポリドール・オーケストラ

STEREO

MANUFACTURED BY NIPPON GRAMMOPHON CO., LTD. JAPAN.  
BROADCASTING OF THESE RECORDS ARE FORBIDDEN.

ALL RIGHTS OF THE RECORD MANUFACTURER AND OF THE OWNER OF THE WORK RECORDED RESERVED.  
COPYING, PUBLIC PERFORMANCE, BROADCASTING OF THESE RECORDS ARE FORBIDDEN.



SLJ 32

B

邦楽三味線ムード  
(豊寿名演集)

- 1. 新内流し
- 2. 潮来出島
- 3. 越後獅子
- 4. 元禄花見踊り
- 5. びんのほつれ

(編曲：川上義彦)  
三味線：豊寿、豊藤  
ポリドール・オーケストラ



## ■このマークを集めましょう

音のメーカーとして、文化に貢献、社会に奉仕をモットーとしている日本ビクターが日本の一流メーカーと手を組んで教育設備助成運動に参加しました

- あなたのお子様の学校に教育用品を

ビクターレコードについているマークを、お子さまの学校にお持ち下さい。小・中・高等学校のPTAを通じて助成会に集められたマークが、お子様の学校のテレビや拡声機になり、また恵まれない「へき地の学校の教育設備が充実されます

- マークを集めよう

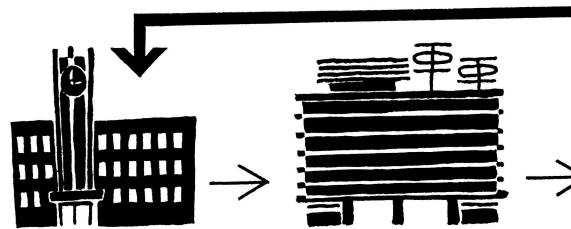
日本中の学校がよくなるこの運動にあなたもご協力下さい

- 昭和36年4月以降発売されるビクター・レコード全部にこのマークが添付されています

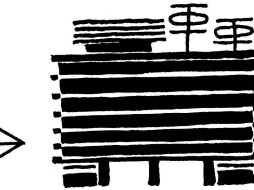
●あなたがお求めになったビクターレコードで、日本中の学校がよくなるこの教育設備助成運動に協力できます



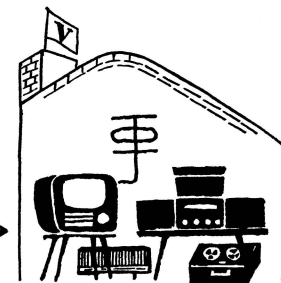
■ご家族そろって楽しみながら助成会のマークが集められます



■みなさまが集めたマークを学校・PTAで一括します



■一括されたマークは、助成会で学校教育設備の為に有効に使用されます



■いろいろな教育設備が購入されあなたに関係ある学校へ送られます



■それと同時に、全国の、めぐまれないへき地の子供たちにも教育設備がプレゼントされるのです



スーパー・レコードはレーベルにこのマークが、指示してあります

■試験されましたか？ 今大評判の、いつもきれいな、ほこりのつかない材質使用のスーパー・レコード